

(4)酵母抽出物の添加により、免疫力向上(乳房炎予防・初乳品質向上等)、肝機能維持(低Ca血症予防・脂肪肝、ケトosis予防等)に効果が期待出来ます。

製品名	CP	TDN	形状
スノードライ バランス	20	70	オールペレット

**乳質改善サプリメント**

混合飼料 雪印K-1 (ケーワン)

～特徴～

(1)数種類の植物性天然ハーブが添加されており、牛本来の免疫力を高めることで、各種疾病の軽減、

体細胞の低減による乳質改善を目指したサプリメントです(乳量に関係なく1日1kg給与します)。

(2)安心してお使い頂ける様、繊維質に富んだ原料(そうこう類など)を主体として設計しています。

(3)酵母を添加していますので、飼料効率の改善が期待できます。

製品名	CP	TDN	形状
雪印K-1	14	62	オールペレット

以上、簡単ではございますが、苫小牧工場及び製品の紹介をさせて頂きました。今後とも変わらぬお引き立てとご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

## 雪印種苗育成 “牧草新品種” の紹介

### 1. はじめに

当社育成のチモシー2品種、オーチャードグラス1品種およびアルファルファ1品種が北海道優良品種に認定され、一部の品種については販売を開始しております。以下に新品種の増殖状況および特性について紹介いたします。永続性と収量性に優れる雪印種苗育成品種を今後の草地更新の機会にご利用いただければ幸いです。

<チモシー>

『ホライズン』

早生品種、来年度から本格販売開始

『シリウス』

晩生品種、来年度から少量販売開始

<オーチャードグラス>

『バッカス』

晩生品種、来年度から少量販売開始

<アルファルファ>

『ケレス (系統名：SBA9801)』

早生品種、少量販売中

### 2. チモシー新品種『ホライズン』の特性

ホライズンの出穂始は全道平均でクンプウより5日遅く、ノサップより2日早い早生品種であり、早生のなかでは出穂がやや早いほうに属します(図1)。

牧草は一般に出穂が早くなるほど1番草の収量は低くなる傾向にありますが、ホライズンはノサップ並みの収量性であることが、各試験において確認されております。

ホライズンの特徴として、2番草の節間伸長茎が多く、2番草が多収であることが挙げられ(図2)、耐倒伏性にも優れております。

最近の種子需要を見ると、中生品種が微増傾向にあります。中生品種は1番草収量が高く魅力的ですが、草量が多いために耐倒伏性が早生品種よりもやや劣り、再生力についても同様に劣る傾向にあります。

播種後2～3年目の草地や糞尿が多く施用されている草地は生育が旺盛であり、株元から寝るように倒伏している草地を時折見かけます。このような草地は刈り取り後、蒸れや日陰による裸地が発生する場合があります。その後、裸地にはギシギシやその他雑草の実生個体が発生し、植生が不良になります。

また、倒伏した草地は下草が濡れており、収穫した牧草の水分が高いため、サイレージや乾草調整の際、水分が低くなりにくいなどの問題もでてきます。糞尿を多く施用する草地や輪作体系に組み込まれている肥沃な圃場は倒伏に強い早生品種を利用し、糞尿のあま

出穂始 月日	6/7	6/13	6/15	6/17	6/22	6/25
クンプウ		ホライズン	ノサップ	ホクセイ	ホクエイ キリタツブ	シリウス ホクシユウ

図1 出穂始めの全道平均 '00～'01年：道内6試験場  
注)ホクセイ、ホクエイは試験に供試されていないが、過去の出穂データをもとに位置づけした。

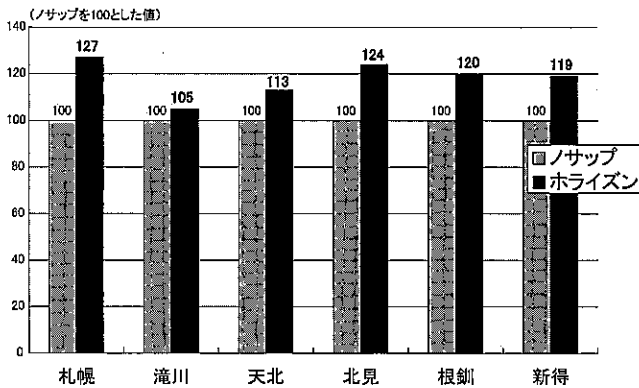


図2 2番草乾物収量(播種2年目と3年目の合計)

り入らず、遅刈りになりやすい遠隔地などに中生品種を利用するなどの工夫が必要です。

### 3. チモシー新品種『シリウス』の特性

シリウスの出穂始は全道平均でキリタップより3日遅く、ホクシュウと同日の晩生品種です(図1)。ホクシュウは、本来、採草放牧兼用品種ですが、莖数が多く、草型も採草用品種と比較すると開帳型であるため、実際には放牧地での利用が主体でした。シリウスはホクシュウよりも直立型の草姿であり(写真)、主に採草用に適します。

チモシーではこれまで、刈り取り適期の拡大を目的に極早生～中生までの採草用品種が育成されてきましたが、シリウスの育成により、更に刈り取り適期の拡大が可能となりました。シリウスの利用場面としては、遠隔地の草地で遅刈りとなる草地や年間1回刈り草地への利用が想定されます。

### 4. オーチャードグラス新品種『バックス』の特性

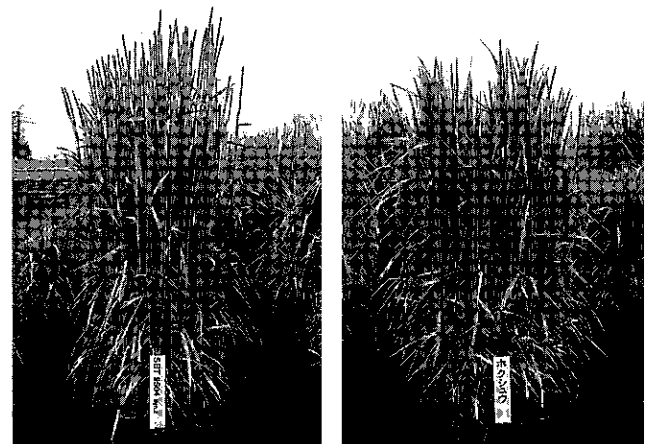
バックスの出穂始は全道平均でオカミドリより2日遅く、トヨミドリより3日早く、当社で販売してきたハイキングとほぼ同熟期の晩生品種です。

バックスは越冬性と各種病害抵抗性が優れ、十勝や網走などの道東地域における越冬性も優れております。また、再生力が旺盛であり、各番草ともに多収であるため、面積の制約がある畑作酪農地域などでは利用価値が大きいと思われます。特にアルファルファとの混播では3回刈りによる多収性が期待でき、嗜好性と栄養価が優れた牧草を生産することが可能です。

### 5. アルファルファ新品種『ケレス』の特性

越冬性が優れており(図3)、根釧地域を含めた全道での利用が可能です。全道で行われた品種選定試験では越冬条件が厳しい十勝、根釧の収量成績が良好であり(図4)、これまで栽培が難しいとされてきた地域における積極的な普及を期待したいところです。

ケレスは北海道の重要病害であるそばかす病に対する抵抗性にも優れております。特に9月～10月に多く発生し、罹病後は葉が黄化・落葉します。罹病すると



チモシーシリウス

チモシーホクシュウ

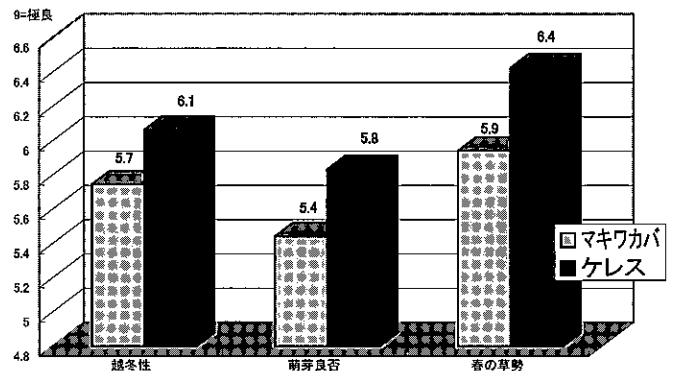


図3 春の生育特性(道内6試験場の2カ年平均)

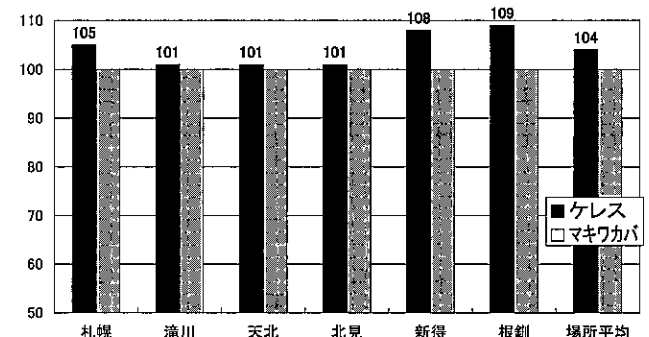


図4 3カ年合計乾物収量比(品種選定試験、2002-2004年)

減収するだけでなく、秋の刈り取り危険帯(9月下旬～10月上旬)と発生時期が重なることが多いため、光合成および炭水化物の蓄積が阻害され、越冬性が不良になります。

(北研 谷津)

## 雪印種苗株式会社

編集発行人 長尾 漱  
本社004-8531札幌市厚別区上野幌1条5丁目1番8号

TEL (011)891-5911

FAX (011)891-5774